

技術情報

各関係機関団体の長
各病虫害防除員
農業資材販売等関係者 } 殿

福岡県病虫害防除所長

麦類赤かび病の防除の徹底について

本病は開花期から開花10日後が最も感染しやすい時期です。本年は小麦、大麦とも出穂期が平年並からやや遅くなっています。麦類の生育と開花期以降の気象に十分留意して防除の徹底を指導願います。

1 作物名 麦類

2 病虫害名 赤かび病

3 防除上注意すべき事項

- (1) 本病は、開花期から開花10日後に気温が高く降雨が続くと発生が多くなる。
福岡管区气象台4月11日付け発表の1ヶ月予報では、小麦の開花期である4月下旬の気温は平年より高く、降水量は平年より多いとされている。天候は周期的に変化すると予想されているため、開花期以降の気象に十分注意する。
- (2) 小麦の防除適期は、開花期（出穂後7～10日頃）である。開花期防除を実施後、開花期間中の気温が高く降雨が続き多発が予想される場合は、開花7～10日後にも必ず防除を行う。なお、開花期は播種日、品種及び今後の気温の変動等によりほ場毎に異なるので注意する。また、二条大麦の防除適期は、薬骸の抽出し始めの穂揃い約10日後（出穂後1.2～1.4日）である。この時期は収穫前30日頃となるため、薬剤の選定に当たっては収穫前規制に留意する。
- (3) 降雨の合間に薬剤防除を行う場合、液剤は散布後一旦乾けば降雨があっても薬剤の効果はある。しかし、粉剤の場合は、散布後6時間以内に降雨があった場合は薬剤の効果が落ちるため、天候に留意する。
- (4) 防除薬剤については、平成20年度福岡県普通作病虫害・雑草防除の手引きを参照する。なお、これまでの研究によると、本病に対してはチオファネートメチル水和剤、同粉剤及びメトコナゾール粉剤の効果が最も高い。
- (5) 防除に当たっては、農薬使用基準（使用時期（収穫前日数）等）を遵守するとともに、周辺への農薬飛散防止に努める。

4 その他

麦類の検査規格では、食用麦の赤かび病被害粒の混入限度は0.0%である（赤かび病被害粒が0.05%以上混入している麦類は規格外となる）。また、小麦粒に含まれるかび毒（DON）の暫定基準値は1.1ppmで、これを超える小麦は流通できない。